

平成22年度 【 学園研究費助成金<A> 】 研究成果報告書

学部名 生活科学部

フガナ ムカミ シ
氏名 村上 心

研究期間 平成22年度

研究課題名 タイ「100年市場」の再生・保全計画に関する研究

研究組織

	氏名	学部	職位
研究代表者	村上 心	生活科学部	教授
研究分担者	川野 紀江	生活科学部	助教
研究分担者			

1. 本研究開始の背景や目的等

研究代表者の村上は、これまでに団地・地域の再生に関する研究を我が国において先駆的に行ってきた。また、シドニー研修の実施、昨年度の学園研(A)(「国際ワークショップ手法による地域・団地再生」)により、本学の国際交流を推進し、これまでの研究成果の社会への還元を実行している。本申請においてはタイを対象国として、専門分野である建築分野での国際交流・貢献を実施する。具体的には、タイのUNESCO 保全エリアである「100年市場(タラートロイピー)」の再生計画の策定協力の一環として、再生計画案を提示することを目的とする。

2. 研究方法等

現在、「100年市場」として知られるサムチュック市場の保全と再生については、海外からの専門家を加えて、保全計画を策定することが検討されている。本研究期間中に以下の方法により現地実地調査、及び、関係者とのミーティングを実施し、再生・保全計画の策定協力を行う。

(1)サムチュック市場の原型再現

原型再現と条件：現地実地調査に基づき原型を再現し、原型条件と保存状態を明らかにする。

(2)サムチュック市場の課題抽出

サムチュック市場の保存再生時に考慮すべき課題点を各視点から抽出する。

(3)再生への条件設定・保存再生案の提示

上記を踏まえ、再生への条件設定、保存再生案を提示する。

3. 研究成果の概要

●タイ、スパンブリ県サームチュック市場の開発の経緯・歴史

サームチュック市場は、首都バンコクより北西へ約 120km の距離に位置し、1894 年のオープンから以後現在まで 100 年以上にわたり営まれ続けている。1894 年に「ナーンブアット」ター・チン川沿いの住戸から建設が開始され、当初はタイの伝統的な貿易である水上マーケットとして機能していた。1910 年頃より内陸の政府所有の街区が開発され同時に市場の名前が現在の「サームチュック」と変更される。1931 年より個人所有の街区が開発され、現在の形態に至っている。また、貿易の中心であった水上マーケットだが、洪水対策のためター・チン川に水門が設けられたこと、また交通手段が水路から道路整備に伴い陸路に移行され始めた 1960 年頃より水上マーケットは衰退していった。現在は観光用の船が行き来するだけで交通機関として水運は機能していない。さらに近年では、アジアバブルの崩壊により、サームチュック市場も経済不況の影響を受け、管理管轄が政府から現地へと移された。これに伴い、サームチュックでは現地居住者でコミュニティが形成され、保存再生への建築的取り組み、研究開発、近隣地域一帯との観光産業の活性化について会議が開かれている。

●現在市場が直面している課題の抽出

《建築面》街並の保存再生のため、開発委員会を中心とし改修への取り組みが行われているが、住民間で改修時の詳細な取り決めがされていないため改修計画が個人の裁量(図 3 黄色)となり、市場全体で統一感のある街づくりがされないことが考えられる。歩道整備、建物屋根の改修等様々な改修への取り組みが試みられているが、保存再生への専門的な知識が不十分な点があり RC 造の橋の屋根復元など保存再生として改修が行われているのか疑問視される点がある。そのため、専門的な知識が必要とされる。

《観光・経済面》現地通貨の発行、郷土料理の PR など工夫はされているが、金をサームチュック市場に落とさせるようにするため一番必要な観光客の滞在時間を増やす直接的な要因が詰められていないことが問題である。

《防災面》木造長屋が主であるサームチュック市場において火災への対処が一番の課題である。各々の注意もさることながら、電線の整備不良や木造家屋への防災計画の甘さが課題である。課題点の多くが建築設備や建物に関することなので、建築面の計画と共に課題へ取り組む必要がある。

●再生への条件設定の方法

- ・建物・街並レベルで付帯物を排除、材料の変更、カバー、色彩制限の 4 段階に再生手法のレベル設定をする。
- ・保存再生案として、以下を提案する。

《マスタープランレベル・詳細項目の再生》日除のビニルシートの代わりに木造のアーケードを設置、新たな動線として PassWay を設ける等、全体での再生計画を提案する。各詳細部についてもレベル別に再生案を提案し、再生レベルを選択できるようにする。

4. キーワード

①タイ	②再生	③100年市場	④国際交流
⑤国際貢献	⑥	⑦	⑧

5. 研究成果及び今後の展望 (公開した研究成果、今後の研究成果公開予定・方法等について記載すること。既に公開したものについては次の通り記載すること。著書は、著者名、書名、頁数、発行年月日、出版社名を記載。論文は、著者名、題名、掲載誌名、発行年、巻・号・頁を記載。学会発表は発表者名、発表標題、学会名、発表年月日を記載。著者名、発表者名が多い場合には主な者を記載し、他〇名等で省略可。発表数が多い場合には代表的なもののみ数件を記載。)

研究の成果は、現地調査協力者及び専門家への報告を行った。また、今後は、タイ・ジャパンファウンデーションとの連携・協力を検討し研究を進展させ、現地の再生計画策定への提言とすることで研究成果を還元する予定である。